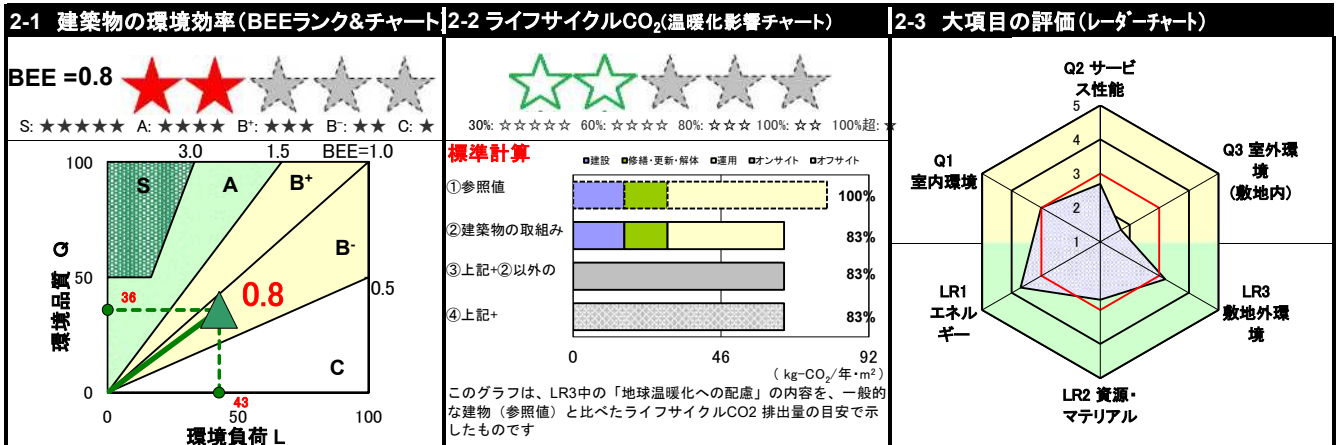


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 24052

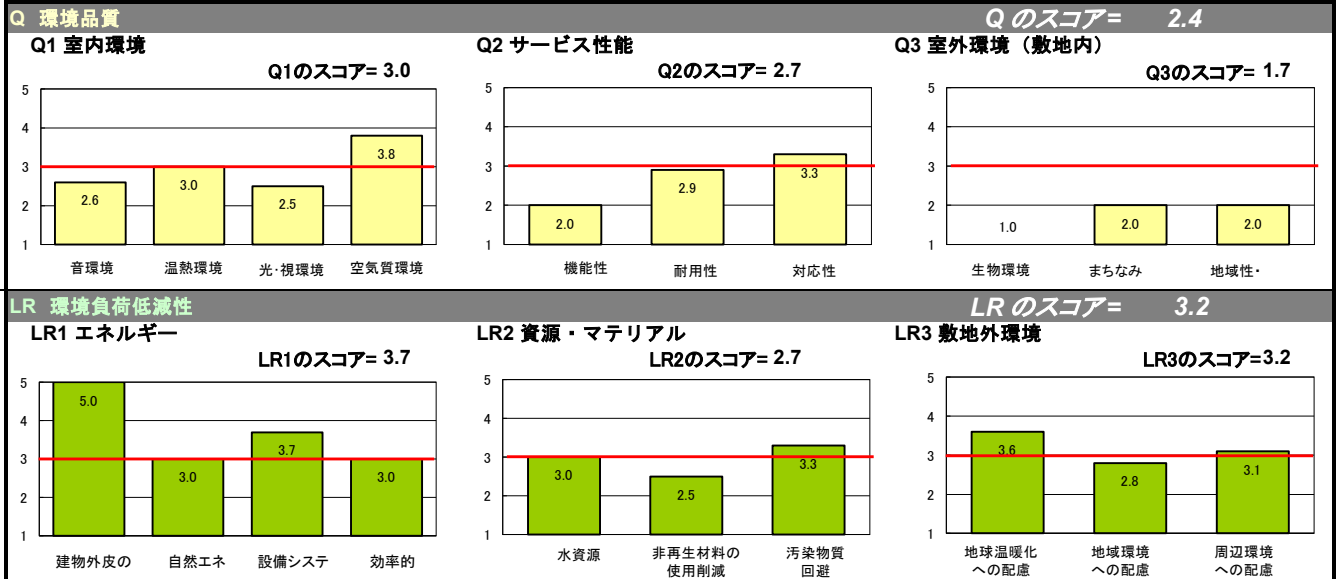
建築物名称	大利根精機株式会社新工場新築工事
建築主	大利根精機株式会 代表取締役 野口 英之
建築物の所在地	川崎市川崎区桜本二丁目31番1、32番41、32番42
設計者氏名、建築士事務所名	北村 千穂 株式会社西東京建設 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,017.07㎡
用途	工場、事務所、自動車車庫、自転車駐車場
構造	鉄骨造
階数	地上2階
工事完了予定年月	令和8年3月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大利根精機株式会社新工場 新築工事	階数	地上2F、地下0階
建設地	神奈川県川崎市川崎区桜本二丁目31番1、32番41、32番42	構造	S造
用途地域	準工業地域/第二種住居地域、準防火地域	平均居住人員	30 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,900 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2025年2月14日
敷地面積	1,955 m ²	作成者	西東京建設
建築面積	1,506 m ²	確認日	2025年2月14日
延床面積	2,017 m ²	確認者	西東京建設

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください



2-4 中項目の評価(バーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-川崎2023(v.4.0)

大利根精機株式会社新工場 新築工事

24052

重点項目についての環境配慮概要			実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。			
緑の保全・回復(G)			Gの平均点	2.3
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策				
1 生物環境の保全と創出	特になし			
2 まちなみ・景観への配慮	特になし		1.4/4.3	1.6
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	特になし			
LR-3 ■ 敷地外環境対策				
2 2.2 温熱環境悪化の改善	特になし		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)			Wの平均点	2.7
Q-1 ■ 室内環境対策				
2 2.1 2.1.2 外皮性能	特になし			
3 3.1 3.1.3 屋光利用設備	特になし		0.4/0.7	2.5
3.2 3.2.1 屋光制御	特になし			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策				
1 生物環境の保全と創出	特になし			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	特になし		0.6/2.3	1.3
LR-1 ■ エネルギー対策				
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.70			
2 自然エネルギーの利用	特になし		3.8/5.0	3.8
3 設備システムの高効率化	BEI _m =0.73			
4 効率的運用	特になし			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策				
1 水資源保護	特になし			
2 非再生性資源の使用量削減	特になし		2.5/4.7	2.7
3 3.2 フロン・ハロンの回避	特になし			
LR-3 ■ 敷地外環境対策				
2 2.2 温熱環境悪化の改善	特になし		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)			Rの平均点	3.0
Q-2 ■ サービス性能対策				
2 2.2 部品・部材の耐用年数	特になし		0.3/0.5	3.4
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策				
1 水資源保護	特になし			
2 非再生性資源の使用量削減	特になし		2.1/4.0	2.6
LR-3 ■ 敷地外環境対策				
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	特になし		0.2/0.4	2.8
ヒートアイランド現象の緩和(H)			Hの平均点	2.7
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策				
1 生物環境の保全と創出	特になし			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	特になし		0.6/2.3	1.3
LR-1 ■ エネルギー対策				
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.70			
2 自然エネルギーの利用	特になし		3.8/5.0	3.8
3 設備システムの高効率化	BEI _m =0.73			
4 効率的運用	特になし			
LR-3 ■ 敷地外環境対策				
2 2.2 温熱環境悪化の改善	特になし		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 2.7

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要			実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。			
建設段階				
Q-2 ■ サービス性能対策				
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	特になし		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階				
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策				
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用	特になし		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	特になし			
運用時のエネルギー				
LR-1 ■ エネルギー対策				
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.70		3.8/5.0	3.8
2 自然エネルギーの利用	特になし			
3 設備システムの高効率化	BEI _m =0.73			
4 効率的運用	特になし			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄					全体
	G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										2.4
Q1 室内環境							0.32		-	3.0
1 音環境						2.6	0.15		-	2.6
1.1 室内騒音レベル					—	3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音					—	3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能					—	3.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能					—	3.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					—	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					—	-	-	-	-	
1.3 吸音					—	1.0	0.20	-	-	
2 温熱環境						3.0	0.35	-	-	3.0
2.1 室温制御					—	3.0	0.50	-	-	
1 室温		W			—	3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能					—	3.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性					—	3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御					—	3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式					—	3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						2.5	0.25	-	-	2.5
3.1 昼光利用					—	2.4	0.30	-	-	
1 昼光率					—	2.0	0.60	-	-	
2 方位別開口					—	-	-	-	-	
3 昼光利用設備		W			—	3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策					—	2.0	0.30	-	-	
1 昼光制御		W			—	2.0	1.00	-	-	
3.3 照度					—	3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御					—	3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						3.8	0.25	-	-	3.8
4.1 発生源対策					—	4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質					建築基準法を満たしF☆☆☆☆を全面に採用	4.0	1.00	-	-	
4.2 換気					—	3.3	0.30	-	-	
1 換気量					換気計算書より1.35倍を確保	4.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能					居室床面積の1/15以上の開口面積を確保	5.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮					—	1.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理					—	4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視					—	3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御					全館禁煙としている	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	2.7
1 機能性						2.0	0.40	-	-	2.0
1.1 機能性・使いやすさ					—	2.3	0.40	-	-	
1 広さ・収納性					—	1.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応					—	3.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画					—	3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性					—	1.3	0.30	-	-	
1 広さ感・景観					—	1.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース					—	2.0	0.33	-	-	
3 内装計画					—	1.0	0.33	1.0	-	
1.3 維持管理					—	2.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計					—	3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保					—	2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振					—	3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					—	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能					—	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					—	3.4	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			R		—	3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			R		—	2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			R		壁・天井:ビニールクロス	5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			R		—	3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			R		給水・排水・給湯:B、通気:Aを採用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			R		—	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性					—	2.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備					—	3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備					—	2.0	0.20	-	-	
3 電気設備					—	1.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法					—	3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備					—	1.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性									3.3	0.30	-	-	3.3	
	3.1 空間のゆとり									4.2	0.30	-	-		
	1 階高のゆとり								工場：6130mm、事務所：4400mm確保	5.0	0.60	-	-		
	2 空間の形状・自由さ								-	3.0	0.40	-	-		
	3.2 荷重のゆとり								-	3.0	0.30	-	-		
	3.3 設備の更新性								-	3.0	0.40	-	-		
	1 空調配管の更新性								-	3.0	0.20	-	-		
	2 給排水管の更新性								-	3.0	0.20	-	-		
	3 電気配線の更新性								-	3.0	0.10	-	-		
	4 通信配線の更新性								-	3.0	0.10	-	-		
	5 設備機器の更新性								-	3.0	0.20	-	-		
	6 バックアップスペースの確保								-	3.0	0.20	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)										-	0.38	-	-	1.7	
1	生物環境の保全と創出				G	W			H	-	1.0	0.30	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮				G					-	2.0	0.40	-	-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮									-	2.0	0.30	-	-	2.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上									-	2.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W			H	-	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性											-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー										-	0.40	-	-	-	3.7
1	建物外皮の熱負荷抑制					W			H	BPI _m =0.70	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用					W			H	-	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化					W			H	BEI _m =0.73	3.7	0.50	-	-	3.7
4	効率的運用									-	3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価									-	3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング					W			H	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制					W			H	-	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価									-	-	-	-	-	
	4.1 モニタリング					W			H	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制					W			H	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル										-	0.30	-	-	-	2.7
1	水資源保護					W			R	-	3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1 節水									-	3.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用									-	3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無									-	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無									-	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減									-	2.5	0.60	-	-	2.5
	2.1 材料使用量の削減					W			R	-	3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用					W			R	-	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					W			R	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					W			R	-	1.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材					W			R	-	2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み					W			R	-	3.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避									-	3.3	0.20	-	-	3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用									サッシ、タイル目地、ガラスのシーリング	4.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避									-	3.0	0.70	-	-	
	1 消火剤					W				-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)					W				-	3.0	0.50	-	-	
	3 冷媒					W				-	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境										-	0.30	-	-	-	3.2
1	地球温暖化への配慮					W				LCCO ₂ =83%	3.6	0.33	-	-	3.6
2	地域環境への配慮									-	2.8	0.33	-	-	2.8
	2.1 大気汚染防止									-	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善				G	W			H	-	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制									-	2.5	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減								R	-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制								R	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制								R	-	3.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制								R	-	1.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮									-	3.1	0.33	-	-	3.1
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止									-	3.0	0.40	-	-	
	1 騒音									-	3.0	0.33	-	-	
	2 振動									-	3.0	0.33	-	-	
	3 悪臭									-	3.0	0.33	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制									-	3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制									-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制									-	1.0	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制									-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制									-	3.7	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策									広告照明はすべての配慮事項を満たしている	4.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策									-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	3.0		-	-	○	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	1.0		-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	2.0		-	-	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	1.0		-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	2.0		-	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	1.0		-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	3.0		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	6.0		1.0	-	-	3.0	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0		-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) -															
U値(W/m2K) 窓システム -															
住戸部分システムU値 -															
外壁 -															
床 -															
屋根 -															
ηAC -															
ηAH -															
星光率 1.1%															
自然換気有効開口比 18.9%															

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース .0㎡ / 人 病床 .0㎡ / 床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡															
コンセント容量 0.0 VA/㎡															
天井高 2.4 m															
リフレッシュスペース 0.5% レストスペース 2.0%															
想定耐用年数 0 年															
想定必要間隔 0 年															
想定必要間隔 20 年															
想定必要間隔 0 年															
階高 4.4 m															
壁長さ比率 42.0%															
床荷重 2900 N/m2															

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数 31% 建物緑化指数 0%															
空地率 23% 水平投影面積率 10%															
地表面対策面積率 7%															
舗装面積率 17%															

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m 0.70 日射等性能等級 等級2 相当															
自然エネルギー直接利 0 MJ/年㎡															
採光を満たす教室数 80.0%															
採光を満たす住戸数 80.0%															
通風を満たす教室数 80.0%															
通風を満たす住戸数 80.0%															
BPI/BPI _m 非住宅 0.73 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW															

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率 0.0%															
特定調達品E - エコマーク商品 -															
自治体指定の特定品目等 -															
使用比率 5.0%															
オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)															
オゾン層破壊係数(C 0 地球温暖化係数(GWP) -															
オゾン層破壊係数(C 0 地球温暖化係数(GWP) 675															

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 65% 棟間隔指標Rw 0.81															
地表面対策面積率 7.0%															
屋根面対策面積率 0.0%															
外壁面対策面積率 0.0%															
見付面積Sb 537㎡ 越風向と直交する最大敷地幅Ws 58.51 m 基準高さHb 14.06 m															
緑地 141㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡															